

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

広瀬中学校区	校番 19	福山市立広瀬中学校
最終更新日	2020年(令和2年)9月30日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校の取組みや成果を分かりやすく示すことで、改善のための有効な意見を聞くことができた。 また、少人数小規模校のため、児童生徒個々の姿容から、成果を確認すると共に、これまで以上に地域・保護者と連携した取組みが大切である。	児童生徒の現状 元々中学校区に在住する児童生徒は「0」となり、学校に隣接する児童養護施設から通学する児童生徒や、他の校区から通学する児童生徒が増加している。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「課題発見・解決力」「コミュニケーション能力」「共感力」 ・挑戦・命と健康を大切にすることをもち、粘り強くやり抜く子ども ・共感・様々な考えを理解し、個性や違いを尊重し合い、共に高め合える子ども ・創造・知識の経験に基づき考え、新たな学びを創造する子ども 小中合同行事を効果的に仕組み、異年齢交流や大人数での活動を行い、児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積み、自己肯定感を高める。
---	---	---	--

III 自校

ミッション へき地・小規模校の特徴を生かし、保護者の願いや生徒の課題を的確に掴み、保護者・地域・学校が一体となり効果的な広瀬中学校区教育を展開する。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「課題発見・解決力」	「コミュニケーション能力」	「共感力」
学校教育目標 自ら学び 心豊かで たくましく生きる生徒を育てよう	めざす子ども像	中期	多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。	思いやり、優しさを持って、人に接し、相手目線で考えることができる。
現状 <児童生徒> 小学校時に不登校傾向や大人数の集団に馴染めなかったりした生徒や、小規模・少人数な環境を選び校区外から登校する生徒が多い。そのため、学力が定着してなく、生活習慣も確立できていない、自己肯定感が低い生徒の割合が高い。 <授業> 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために、具体物を使ったり、個に応じた指導に取り組んだりしている。生徒が主体的に学ぶ授業については、ブロック研修で学んだことを自校で取り組み、授業改善等を図っている。		後期	多様な他者と協働することで、新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。	思いやり、優しさ、助け合いの心を持ち、協働し、高まり合うことができる。
	教科等	総合的な学習の時間		
	研究 主題・内容等	(研究主題) 思考力・表現力の育成 (研究内容) ○「子ども主体の学び 全教室展開」に向けて、それぞれの教科で、どう考えさせ、どう伝えさせ、どう自分の考えを持たせるのか。また、困った時に、生徒同士をどうつなげ、自分たちで解決させるのか。 ○生徒どうしの学び合いによる協働的で主体的な学びの推進		
	めざす授業の姿	○「なぜ、どうして?」「教えて!」「わかった、できた!」「もっとやりたい!」などの声が出る授業 ○個の課題に合わせた支援が適切に行われ、誰もが分かる授業		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬中学校

中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
2	★	継続	①生徒が主体的、対話的で深い学びとなるよう、生徒どうしの学び合いのある授業を定着させる。	○学び合いのある場面を必ず授業に取り入れ、生徒アンケートで見取る。	○「授業がよくわかる」「授業で考えることは面白い」生徒肯定的評価80%以上	□「学び合いのある場面を授業に取り入れられている」「授業がよくわかる」「授業で考えることは面白い」の生徒肯定的評価はそれぞれ82.5%、83.9%、71.9%であった。	3	3	○今後もわかる授業を工夫し学び合いのある場面を必ず授業に取り入れ、生徒の肯定的評価を80%以上とする。				
			②思考力・表現力を育成する。	○年間を通して俳句作りをさせる。また、定期的に俳句学習会を開催する。	○全生徒、俳句句作数一人100句以上	□1学期末時点、100句達成；3名、50句達成；10名。俳句学習会は実施せず、一人一句作った俳句を送り、評価してもらう取組を実施する。	2	2	○今後も継続した取組を行い全生徒、俳句句作数一人100句以上とする。				
1	★	新規	③生徒に達成感を持たせ、リーダーとしての自覚を持たせる。	○小中合同行事等に生徒が主体的に参画する。	○「達成感」「協働・参画」生徒肯定的評価80%以上	□「達成感」「協働・参画」の生徒肯定的評価はそれぞれ79.3%、82.7%であった。	3	3	○普段からリーダーとしての自覚をもって取り組む場面を取り入れ、生徒肯定的評価を80%以上とする。				
			④生徒に自信と発表力をつけさせる。	○英語暗唱大会や俳句作品展に積極的に出場・出品する。	○英語暗唱大会出場、全生徒5%以上 ○俳句作品展入選、全生徒15%以上	□英語暗唱大会には1年生が1名出場、全生徒の3%であった。 □俳句作品展へはこれから出品予定。	2	2	○普段から人前で英語のスピーチができるように英語の授業を工夫させる。 ○各種俳句作品展に出品し、入選を目指す。				

中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価
1 基礎体力を向上させる。	★	新規	⑤持久力を中心に体力を向上させる。	○新体カテストを全校で実施し、前年度の自己記録を全て上回る。	○自己記録が前年度より上回った生徒90%以上 ○持久力に係る再テスト自己ベスト80%以上	□自己記録が前年度より上回った生徒25%であった。 □持久力に係るテストは未実施	2	2	○運動への意欲の持たせ方や授業内容を工夫し、自己記録が前年度より上回った生徒を90%以上にする。				
		新規	⑥部活動(ソフトテニス)を充実させる。	○部員どうし相互に刺激し合い、高め合うよう全教職員で指導する。	○「部活動が充実している」生徒肯定的評価80%以上	□部活動が充実していると回答した生徒肯定的評価は75.0%であった。	2	2	○練習内容や練習時間を工夫し、部活動が充実していると回答する生徒肯定的評価を80%以上とする。				
3 地域・保護者から信頼される学校教育を推進する。	★	新規	⑦その日のことはその日のうちに意識した家庭連携を行う。	○生徒に係る情報を共有し、家庭連携に係る報連相と確認を実施する。	○家庭連携に係る教員・保護者肯定的評価80%以上	□家庭連携に係る肯定的評価は、教員66.7%、保護者100%であった。	3	3	○今後も様々な機会を通して保護者との連携を積極的に行い、教員・保護者肯定的評価を80%以上とする。				
		継続	⑧地域、保護者へ積極的に学校情報を発信する。	○様々な機会を通して地域・保護者との情報発信(各種便り・HP等)を積極的に行う。	○保護者学校満足度80%以上	□積極的に学校情報を発信していると回答した保護者の学校満足度は96.6%であった。	3	3	○今後も様々な機会を通して地域・保護者との情報発信を積極的に行い、保護者学校満足度を80%以上とする。				

中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	加ゼン評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加ゼン評価	達成評価	総合評価
1 働き方改革の意義を理解し、自ら実践することができる。	★	新規	⑨7時間45分を意識し、心身ともに健康な働き方ができる。	○部活動休養日と定時退校日等を確実に実施する。	○時間外勤務時間、月45時間を超える職員ゼロ	□時間外勤務時間、月45時間を超える職員ゼロは達成できなかった。 時間外勤務時間、月45時間を超える職員数 4月;1人 5月;0人 6月;1人 7月;1人 8月;0人	2	2	○今後も部活動休養日と定時退校日等を確実に実施し、時間外勤務時間、月45時間を超える職員をゼロとする。				
		新規	⑩本校での仕事に意義とやりがいを感じることができる。	○教職員相互のサポート体制を確立する。	○教職員肯定的評価95%以上	□本校での仕事に意義とやりがいを感じることができると回答した教職員の肯定的評価は88.9%であった。	2	2	○教職員相互のサポート体制を確立するとともに、それぞれの業務についての意味づけを行い、仕事に意義とやりがいを感じることができると回答する教職員の肯定的評価を95%以上とする。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。